2022 年度活動概要　　言語政策研究会

2000 年発足の本研究会の特徴は以下の通りです。
1. 急速なグローバル化と情報ネットワーク化の中で、少数言語や多言語教育と摺り合わせながら、言語・教育の影響力や問題・矛盾点を客観的に考察する。
 ⇒近未来の言語教育の第三の道や未来予想図を提示していく。
2. 会員の担当言語の教育分野が異なる
英語教育、日本語教育、ろう教育、第二外国語教育・文化研究（スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語など）
3. 多岐にわたる研究分野［日本の英語学習者、留学制度、教育政策、教師教育、教員養成、少数言語話者・移民ー日本、インド、カナダ、豪州、米国、シンガポール、パラオ、台湾、ドイツ、スペイン、機械翻訳等］

年間の活動は、オンライン月例会（第３土曜）を開催。前半は専門書の輪読、後半は会員・非会員による言語教育に関する研究発表と意見交換で、以下の通りでした。4 月　野沢恵美子（中央大学）と波多野一真（創価大学）を中心に、2 月特別研究会の内容の再度発表と意見交換、5 月「Language and Educational Policies in Portuguese Speaking Africa」Laura A. Lopez (Stockholm Univ)、６月「English in Malaysia: ESL or EFL?」 Mohad Farez Syionon bin Masnin（玉川大学）、７月　　東アジア英語教育 SIG との共催例会、9 月「Exploring the potential of translingual model in teaching EFL in Japanese context」モニカ・クオン（金沢大学）、10 月「シンガポール日本語文化継承学校の実態報告」磯村みどり・内海朋子（日本語文化継承学校）、11 月「ネパールの識字教育にみる言語と文字の諸相 －タマン語識字教室の事例をもとに」安念真衣子（国際ファッション専門職大学）、12 月「少数言語の学習動機「外国語」としてのガリシア語の場合」柿原武史（関西学院大学）、2023 年 1 月「就業前訓練としてのティームティーチングにおける脱ネイティブスピーカー信仰への取り組み」宮里恭子（白鴎大学）、3 月「英語授業学を意味づける-教師の成長を促すコミュニティｎ存在-」デイヴィス恵美（大阪成蹊大学）。

他の研究会との協賛にも以下のように取り組みました。
① 7/23、第 227 回東アジア英語教育研究会と共催、　須永恵美子（東京大学）、野沢恵美子（中央大学）、蒲原順子（福岡大学）、原隆幸（鹿児島大学）
② 8/26　JACET 第 61 回 JACET 国際大会、田中富士美（金沢星稜大学）、中川洋

子（武蔵野大学）

③ 12/3 JAAL in JACET、原　隆幸（鹿児島大学）、三村千恵子（宇都宮大学）

④ 3/5 JACET 言語政策 SIG2022 年度年次特別研究会(金沢星稜大学)は 4 月 15 日言語政策 SIG 研究会特別フォーラムに変更

『「つながる」ための言語教育：アフターコロナのことばと社会』 杉野俊子 監修 野沢恵美子/田中富士美 編著（明石書店）（2021 年 8 月）の出版に続き、言語・教育のパターンを多面的かつ力学的に見ていく『言語教育のマルチダイナミクス』のテーマで、本研究会の有志による研究を深めている所です。